

### I

#### ■出題のねらい

しばしば起こりうる話題（駅の忘れ物センターでの落とし物問合せ）に関する会話の内容を正確に理解する問題です。会話に使われている単語や構文はきわめて基礎的なレベルなので、落ち着いて会話の展開を的確にとらえましょう。所有者 **John** はどこで何を落としたのか、落としてから何をしたのか、落とし物の特徴は何か、忘れ物センターの制度はどのようになっているのかなどの情報を、**John** と忘れ物センターの係員との対話から正確に読み取ることで、正答率はアップします。

#### ■採点講評

正答率が最も高いのは  で、本文中の“**that drew a blank**”と置き換えられるもの8割以上の受験生が正答していました。会話の流れをよく理解できている証です。一方、最も正答率が低いのは  でした。この会話が行われたタイミングを選ぶ設問ですが、「**John** のバッグがターミナル駅に届けられる前」という③を選択した解答が4割もありました。**John** の2つ目の発言内容を時間軸に沿って正確に理解すれば、正答④「その週末」にたどり着けるはずです。また、 もやや正答率は低く、30%強でした。正答、つまり選択肢の内容が会話と一致していないのは①のみです。40%の受験生が、会話と一致しているはずの②「このターミナル駅の忘れ物センターではなく、自分が利用する駅で落とし物を受け取れる場合もある」を誤りであると判断したようです。

### II

#### ■出題のねらい

案内ポスターの形式で書かれた英文の内容（あるキャンプ場の広告）を正確に理解する問題です。キャンプ場の設備や使用方法はどのようになっているのか、どのような種類の宿泊場が提供されているのか、料金設定はいくらか、アウトドアのレジャーに不慣れな客にはどのようなサービスがあるのかなど、内容はすべてセクションに分割され、項目ごとにまとまっているので、一つ一つ集中して読み解きましょう。語彙や構文は、一見難しく見えるものも混ざっていますが、基本的にはすべてレジャー用語なので比較的容易に意味が類推できます。

#### ■採点講評

この大問も、5つの設問それぞれで正答率に大きな隔たりがありました。最も正答率が高かったのは、キャンプ場の敷地内の位置関係を正しく示す図を選ぶ  の設問で、ちょうど7割でした。一方、最も正答率が低かったのは、屋外での調理が禁じられている施設を選ぶ

で、2割弱でした。ポスターの英文の「ラグジュアリー・コテージ」の説明の中で、「屋内で調理すること」が明確に要請されています。□9 □10も正答率は比較的低く、いずれも3割強でした。□9はポスターの英文の全体的趣旨を、また□10は各情報の細部を正確に理解することで、正しい選択肢を選ぶことができるはずです。

### III

#### ■出題のねらい

国内の酪農家が20年間で6割減少したという話題です。文脈をしっかりと捉え、酪農家の減少の背景には休日の少なさや後継者不足があり、さらに、小売価格の上昇や国内のみでは供給が追いつかなくなる懸念などの影響が出てきている点を理解できれば正答にたどりつけるはずです。また文章だけではなく、その文章に関連したグラフを読み取る力も試されています。普段から本文に付随する資料にも目を通す習慣を身につけておきましょう。

#### ■採点講評

簡単な計算をして数値を選ぶ□12と、“the latter”の内容を選ぶ□14は、どちらも正答率が5割を超えています。文脈を的確にとらえることができた受験生が多かったということでしょう。一方、英文の細部を正確に理解する必要がある□11 □15は、どちらも3割ほどの正答率しかありませんでした。いずれの設問も、4つの選択肢すべてがほぼ同じような選択率になっていました。日本語文中のキーワードや、重要な数値に注目し、その周辺の英文内容を確実に読み取るよう心がけましょう。□13の正答率は最も低く、2割を切っています。“the difficulty of ~”は、「~することが困難」という意味になるので、正答は③securing「確保すること」です。入試には頻出する語彙なので、確実に覚えておきましょう。

### IV

#### ■出題のねらい

セミについての英文を読み、日本の社会・文化の中でセミがどのように位置づけられているかについて正確に読みとることができるかどうかを問う問題です。全体の大まかな意味をざっととらえ、個々の問題で問われる情報を短い時間で正確に見つけ出す力も大切ですが、表面的な理解だけでは正答にたどりつけない問題も織り交ぜています。難易度の高い単語の意味も、文脈をしっかりと読み込むことによって推測できるはずです。論理的な考察力も重要なポイントです。

#### ■採点講評

受験生の半数以上が50%以上の正答率なので、長文問題としては標準的なレベルの出題でした。

正答率が極端に低い設問もほとんどなく、最低でも [ 24 ] の30%弱でした。他の設問は、5～7割ほどの正答率に落ち着いています。このような標準的な出題は、語彙力や文法力、読解力など、英語の実力が正確に反映されます。たとえば [ 18 ] のイディオムを選択する設問は、正答は②in terms ofですが、①on top ofを選択する受験生が比較的多く、2割程度いました。[ 21 ] の主語を選ぶ設問は、正答は最も長い④です。しかし、①の文頭の語句や、②の動詞の直前の語句のみを選んだ受験生も、それぞれ2割ほど存在しました。[ 23 ] の設問は、セミの実際の鳴き声とその表現方法の関係を端的に表現した英文を土台としています。(ア) The callは正確に選んでいるにもかかわらず、(イ)を誤って①the reasonを選択した受験生が2割以上いました。[ 25 ] [ 26 ] は、誤った選択肢の中では③を選ぶ率が高く、2割強でした。確かにセミの羽は商品開発に活用されていますが、「保湿」の分野ではなく、“waterproof”「防水」です。

## V

### ■出題のねらい

(1)は基本的な構文力と文法力を問う問題です。ただし、文脈を考慮しなければ正答にはたどりつけない問題も含まれているので注意が必要です。(2)は英文全体の内容が把握できているかどうかを問う問題です。「割れやすい瓦」がヒットした背景や瓦産業を取り巻く状況を把握したうえで、正答を見つけましょう。

### ■採点講評

50%以上の正答率を得た受験生は、70%ほどでした。正答率が比較的高い設問は [ 27 ] で、7割超の受験生が正答しています。[ 28 ] [ 29 ] は、いずれも5割ほどでした。[ 28 ] は、“just like + 主語 + 動詞 ing”という構造に気づくことで、動詞 break が不要であると判断できるはずです。[ 29 ] では、“increasingly”という副詞の使用法を理解していることが正答を導く手助けとなるでしょう。